

学校教育委員会の歴史

研鑽の場の提供

① 「校長・理事長・総長管区長の集い」

1988年より毎年4月下旬開催開始。2015年(第28回)は216名参加。

目的：カトリック学校の直面する様々な現状について話し合い、かつ、これらの対応について教会からの呼びかけに応じていく。

② 「校長教頭 合同研修会」1992年開始～1998年第7回で終了。毎年6月に開催。最終回の参加者は75名。【⇒学校連合会へ引き継がれ、2014年6月(第23回)には140名あまりが参加した。】

目的：カトリック教育のアイデンティティーを保つと同時に、カトリック学校の発展・充実のために、校長・教頭の信頼に満ちたチームワークを育てること。

③ 「カトリック学校教職員黙想会」1998年開始～1999年終了。7月頃開催。参加者40名。

目的：カトリック教育に関わる一般職員を含めた、カトリック教育において学校使徒職にたずさわる人々を対象に、日常校務をより良く果たしていくため。

④ 「カトリック学校教師研修会」1998年のみ8月初旬開催。参加者80名。

目的：現場で働く教師たちが、カトリック学校教育の基本的な意識および価値観を再確認し、相互の理解をより一層深め、教会および社会の期待に応えるよう力と支えを見出す。

⑤ 「カトリック教育シンポジウム」1987年開始～1996年終了。毎年11月頃開催。参加者300名。(カトリック学校連合会共催)

目的：カトリック学校教育に興味を持つ人を対象に、現場・日本社会における問題点、今後のあり方、課題等を講演とパネルディスカッションを通して探る。

教職員の信仰教育の提供

① 「教職員のための長崎・五島研修旅行」2013年度開始。定員20名。隔年開催。

目的：カトリック学校に奉職する教員に、日本のカトリックの歴史を体験しカトリック理解を深める経験を提供する。学校教育委員会主催で、学校長の承認を受けた希望者が参加。長崎と五島列島の資料館・教会を巡り、現地の教職員や信徒との交流の機会も設けている。

年月	日本カトリック学校教育委員会	日本カトリック学校連合会
1945(S. 20)	11月末の全国臨時教区長会議において「 天主教教区連盟 」結成を決定、12月1日同連盟設立。同連盟委員会開催。事務局を東京に置く。	
1952(S. 27)	全国教区長会議は、「宗教法人法」の制定を受けて、それまでの「天主教 教区連盟」を「 宗教法人カトリック中央協議会 」と改称。 「カトリック中央協議会」の内部組織として、「 教学部 」が設置される。 教学部長は田口芳五郎司教。	
1956(S. 31)		「 カトリック教育協議会 」が組織された。

		<p>これが「日本カトリック学校連合会」の前身である。それまで中央協議会「教学部」が行ってきた日本におけるカトリック教育関係の事業の多くをこの協議会が担うことになる。事務局はカトリック中央協議会内に置かれた。</p> <p>会 長： 田口 芳五郎司教（1956-1971） 理事長： Fr. N. ルーメル（1956-1964）</p>
1964(S. 39)		理事長： Fr. H. ヘルヴェク(1964-1977)
1966(S. 41)	<p>定例全国司教会議において、「日本カトリック司教協議会」が結成され、諸司教委員会が編成される。こうして「教育委員会」が発足。委員長は田口芳五郎司教、委員は富澤孝彦司教、里脇浅次郎司教。</p>	
1970(S. 45)	<p>日本カトリック司教協議会臨時総会にて各種委員会委員改選。</p> <p>「教育委員会」は委員長安田久雄司教、委員小林有方司教、田中賢一司教、糸永真一司教。</p>	
1971(S. 46)		会 長： 安田 久雄司教（1971-1981）
1974(S. 49)		<p>定例司教総会において「カトリック教育協議会」が改組され、大学から幼稚園までの各レベルの全国組織を総合して、「日本カトリック学校連合会」となった。これにより、カトリック学校間の協力と、外部に対する働きかけにおいて、一層効果的な働きが出来るものと期待された。当初は、「大学短大連盟・中学高等学校連盟・小学校連盟・幼稚園連盟」に分かれて活動していた。</p> <p>理事長： Fr. H. ヘルヴェク</p>
1976(S. 51)		<p>組織変更により、「日本カトリック学校連合会」は、「大学連盟・短期大学連盟・小中高連盟・幼稚園連盟」の4連盟から成る現在の組織となった。</p>
1977(S. 52)		理事長： Fr. G. フォス（1977-1987）
1980(S. 55)	<p>日本カトリック司教協議会定例総会 各種委員会委員改選。</p> <p>「教育委員会」委員長は、濱尾文郎司教。</p>	
1981(S. 56)		担当司教： 濱尾 文郎司教(1981-1987)
1983(S. 58)	<p>「日本の教会の中央機構」としての中央協議会及び事務局の位置づけが承認され、同機構における諸委員会の見直しにより、「教育委員会」は「学校教育委員会」となる。</p>	
1985(S. 60)	<p>「学校教育委員会」（委員長：濱尾文郎司教、森一弘司教）の業務内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カトリック学校における教育理念の明確化。 ・カトリック学校における宗教的人間形成の指導。 ・カトリック学校における教員の研修（新任教師研修及び教員の生涯教育）及び信徒教員の養成の推進。 ・学校という場で生起する教育の諸問題の研究。 ・カトリック学校の設置および廃止に対する助言。 ・カトリック学校以外に奉職する信仰教員の養成と研修。 	

	<p>・青少年委員会と密接な連絡を保つように留意する。 (『日本カトリック年鑑』[7月20日発行]より)</p>	
1987(S. 62)	<p>第1回福音宣教推進全国会議(NICEI) 最終答申:柱I「日本の社会とともに歩む教会」、提案3「カトリック学校の現状と課題を再検討する」。</p> <p>(提案理由) カトリック学校は、日本社会に福音の光を伝えるための最も重要な場の一つです。しかし、現代の日本の教育の複雑な状況の中で(受験戦争、経営問題など)、多くの困難な問題を抱えています。この問題は、関係者とともにさらに検討する必要があります。</p>	<p>担当司教: 森 一弘司教 (以降、<u>学校教育委員会委員長が担当司教となる。</u>)</p> <p>理事長: Fr. 富田 優 (1987-1992)</p>
1986(S. 61)～1995(H. 7) (3期)	<p>NICE-I開催の前年以降、森一弘委員長は全国のカトリック学校の管理職および一般教員の研修会や黙想会、保護者をも含めたシンポジウム等を行った。また、カトリック学校の学校長・理事長および母体修道会の責任者らとともに、カトリック学校に関する重要課題を整理し、問題を共有化して、教会-学校-修道会の協力関係、信頼関係を築くための土台作りを行った。</p>	<p>理事長: Sr. 渡辺 和子 (1992-2001)</p>
1995(H. 7)～1998(H. 10) (1期)	<p>島本要委員長は、引き続き研鑽の場を提供するとともに、カトリック学校連合会との協力で「カトリック学校の自己点検評価基準」(1997年臨時司教総会において承認)を発行した。また、カトリック学校連合会代表との会合を持ち、学校教育委員会と学校連合会の役割分担および相互協力について分かち合った。そのなかで島本委員長は、これまで学校教育委員会が主催してきた各種研修会を各連盟の主体で行うことがよいのではないかという意向を示した。</p>	
1998(H. 10)～2001(H. 13) (1期)	<p>押川壽夫委員長は、1999年度定例司教総会において「カトリック学校の緊急課題に対する対応についての検討」と題する文書を提出した。その結果、司教協議会内に3名の司教によるカトリック学校の緊急課題検討チームが編成された。同チームが2001年度司教総会に提出した「カトリック学校の存廃問題に対する司教団の対応規程案」が同規定として承認された。</p>	
2001(H. 13)～2004(H. 16) (1期)	<p>溝部脩委員長は、プロテスタント学校との共生、修道会と理事会の啓発を目指し、2003年度臨時司教総会にメッセージ「カトリック学校の福音的共同体を築くために」を提示して承認を受け、各カトリック学校経営母体の修道会責任者、事業責任者に送付した。</p>	<p>キリスト教学校教育同盟(プロテスタント学校の連合)との交流も進み、「キリスト教学校教育懇談会」という委員会を立ち上げ(2001年)、毎年、講演会や研修会を開催するようになった。</p> <p>理事長: Fr. 小崎 次郎 (2001-2005)</p>
2004(H. 16)～2014(H. 26) (3期)	<p>池長潤委員長は、2006年度定例司教総会にメッセージ「カトリック幼稚園を経営、管理する立場にある皆様へ 教職員の皆様へ」を提示、承認を受け送付した。</p> <p>また、カトリック学校の課題を整理し、「養成」、「人材の確保・交流」、「相談窓口」、「司教・教区との連携」、「大学との連携」を柱として掲げた。</p>	<p>理事長: Fr. 河合 恒男 (2005-2014)</p> <p>⇒これらの柱に則して具体的な計画をたて、実行に移した。</p>

	<p>2009年『今、カトリック学校教育に求められていること』を発行した。</p> <p>2010年度特別臨時司教総会で学校の危機について論じてもらうため、議案を提出した。</p> <p>2011年には、3月で機関誌『そよかぜ』を休刊、冊子『キリスト教理解のためにーカトリック教育にかかわるすべての人にー』を発行。2013年度より「教職員のための長崎・五島研修旅行」を隔年で始めた。</p>	<p>2010年 ホームページを開設。</p> <p>全国のカトリック学校のために人材情報を提供し始めた。</p>
2015(H. 27)	<p>高見三明委員長着任</p> <p>カトリック中央協議会HPの委員会ページ立ち上げを準備した。</p>	<p>「一般財団法人 日本カトリック学校連合会」が設立された。</p> <p>2015年度は、「任意団体 日本カトリック学校連合会」と「一般財団法人 日本カトリック学校連合会」が併存する。</p> <p>理事長：Fr. 坪光正躬(2015-)</p>
2016(H. 28)	<p>日本カトリック学校連合会との更なる連携をはかっている。</p> <p>2016年9月より前田万葉委員長着任</p>	<p>「任意団体 日本カトリック学校連合会」は、「一般財団法人 日本カトリック学校連合会」に変更される。</p> <p>従来の「日本カトリック幼稚園連盟」は、「日本カトリック幼児教育連盟」と名称を変更する。</p>